

最後の勇士にご対面

陸上自衛隊 今津駐屯地 創立71周年記念行事に参加!!

9月3日、滋賀県高島市今津町にある駐屯地で「陸上自衛隊今津駐屯地創立71周年記念行事」が行われ、一般公開された。

今津駅から今津駐屯地までは、シャトルバスが運行されており、早朝からバスを待つ長蛇の列が出来ていた。ちなみに記者(西)は一時間半待った。

この行事の目玉は何と言っても74式戦車だ。

74式戦車は、61式戦車の後継として、開発された。戦前以来の伝統である空冷エンジンを搭載し、他の車両と違って甲高い音が鳴るのが特徴だ。74式戦車は名の通り、1974年に正式採用された戦車である。49年にも及び運用されたこの戦車だが、今回の記念行事

をもって、退役となる。そのため、最後の勇士を見ようと、大勢の観客が押し寄せた。

そのほか、74式戦車と16式機動戦闘車などによる訓練展示が実施された。最初に偵察用オートバイ、偵察車が登場し、続いて自衛官を乗せた96式装甲車と共に、74式戦車が登場。会場を盛り上げた。

中でも、74式戦車や16式機動戦闘車による射撃では鼓膜が壊れるのではないかと、思うような轟音が会場に響き渡った。これによって、訓練展示は終了した。(西)



展示中の74式戦車



74式戦車に代わって新たに配備されるのが16式機動戦闘車だ。16式は74式と違い戦車ではなく、「戦闘車」というを枠組みに入る。上の写真を見ていただくと、74式には履帯(無限軌道)がある。対して16式は装輪式である。これは現代と、昔で求められる性能が違う。16式は軽量で高速道路などを通じて戦場に向かえるという大きな利点がある。しかし、不整地での走行は74式に軍配が上がる。整備性では、74式は自衛官が整備できるのに対し、16式は、工場に移送しなければならぬ。このように、技術の高度化に

訓練展示中の16式機動戦闘車



74式も49年前では最新鋭の戦車であったが、今では違うのだ。

第5戦

8月26日(土)~27日(日)

SUPER GT RACE in 鈴鹿サーキット

8月26日に公式予選、27日に決勝第5戦が行われ、GT500・GT300のチームが優勝を目指し走り切った。記者(北)は家族とともに、カメラを構えて応援した。撮影は難しかった。決勝では、GT500・GT300クラスが共に走り、GT500・GT300の先頭のマシンが、決められた周回を終えてフィニッシュラインを通過すると、そのチームの勝利となる。

8月27日の第5戦では、GT500クラスは16号車、GT300クラスは18号車が優勝を飾った。GT500クラスと300クラスでは、マシンの性能が違うため、写真のような場面が決勝レースでは、見ることができる。500と300の見分ける方法は、ヘッドライトカバーとゼッケンベースの色、500は白で300は黄色となっている。(北)

GT300クラスで優勝した、18号車



スマホゲーム「にゃんこ大戦争」などが有名なPONOS(ポノス)が、メインスポンサーになったGAINERのマシン ←



(前) 300クラスの初音ミクの4号車と(後) GT500クラスの3号車の2台が並んだ。 ←



応援していたGT300クラスの65号車 ←

